|  |  |
| --- | --- |
| 感染対策委員会議事録 | 会議のチームの図解 |
| 柏教育トレーニングセンター |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 日付:  |  | 時間:  |  | 司会者:  |
| 2025年6月22日 |  | 午前１１時～１１時半 |  | 田端佑介 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 出席者  |  | 議事録の承認  |
| 田端佑介　Ｔ勝代 　Ｎ征大　Ｏ昭子　Ｉ満実子　Ｔ純子 |  | 今回の会議に関して田端佑介が承認した |

|  |
| --- |
| 感染対策の研修会を終えて |
| レジュメにて当日の実施内容と感想を述べてある。とりあえず現時点でも百日咳が流行った。またヘルパンギーナなどが流行し始める頃でもある。コロナ騒動から移行して基本的に日常に戻っているので以前より免疫に関しては強くなっている印象を受ける。全体としてかかっても軽症な人が多い印象だが引き続き手洗いなどを意識していくことが必要だろう。（研修は同日午前１０時から１１時で実施） |

|  |
| --- |
| 次回の会議  |
| 次回は2025年12月に行う。行う1週間から2週間前に職員に告知する。 |

柏教育トレーニングセンター】

通所支援における感染対策研修レジュメ

# 1. 感染症の基礎知識

* ・主な感染経路：接触感染、飛沫感染、空気感染
* ・よくある感染症：インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルス、溶連菌、RSウイルスなど

# 2. 通所支援現場でのリスクと対策

* ・日常場面のリスク：食事・おやつ時、排泄介助時、送迎時など
* ・基本対策：手洗い・消毒、マスク着用、換気、共用物品の消毒

# 3. 職員の行動指針

* ・出勤前の健康チェック（体温・症状）
* ・体調不良時は無理な出勤を控える
* ・家族内感染時の報告義務
* ・適切な防護具（手袋・エプロンなど）の使用

# 4. 利用者・家族への協力依頼

* ・登所前の体温測定・体調確認
* ・風邪症状がある場合の登所見合わせ
* ・感染症発生時の速やかな連絡
* ・通所中止の目安（例：発熱37.5℃以上など）

# 5. 感染発生時の対応マニュアル

* ・感染が疑われる利用者が出た場合：隔離・記録・家族連絡
* ・保健所・自治体への報告体制
* ・消毒・清掃の手順
* ・再開に向けた対応（関係機関との連携）

# 6. 実地訓練・ケーススタディ（例）

* ・例1：利用者が発熱して帰宅 → 対応・記録・報告
* ・例2：職員が発症 → 濃厚接触者の特定・勤務体制の見直し

# 7. まとめ

* ・感染対策は「日々の積み重ね」
* ・自分を守ることが、利用者・家族を守ること
* ・継続的な見直しと職員間の情報共有が重要

※使用動画　厚生労働省ＨＰより引用　障害者支援施設及び障害福祉サービス事業所等職員のための感染症対策の研修会の動画及び実地研修の概要　基礎編　基礎１感染症について正しく知ろう

研修後の感想コメント

## ① Ｏ昭子

感染対策の基本を改めて学ぶことができ、とても勉強になりました。実際の現場でどこにリスクがあるのか具体的に知ることで、より注意深く行動できるようになりそうです。

## ② Ｔ勝代

日々の業務で慣れてしまいがちな手順を見直す良い機会になりました。感染症の事例紹介もリアルで、改めて危機管理意識を持つことの大切さを実感しました。

## ③ Ｔ純子

利用者さんが通所する際の感染リスクについて具体的に考えることができました。車内換気や乗車人数の工夫など、家庭でも気を付けてほしいことを伝えようかと感じました。

## ④ Ｎ征大

感染症対応の流れや報告体制について整理できてよかったです。これまで大きな問題にはなったことがないですが引き続き注意したいです

## ⑤ 田端佑介（管理者）

職員一人ひとりが当事者意識を持つことの重要性を再確認しました。継続的な研修とチェック体制の強化が必要だと感じています。全員で意識を高めていきたいです。

## ⑥ Ｉ満実子

実際の支援の場面で「ここもリスクになりうるんだ」と気づくことが多くありました。日々のちょっとした声かけや行動が感染防止につながるという点が印象に残りました。

感染対策研修会参加記録

事業所内に署名は提示